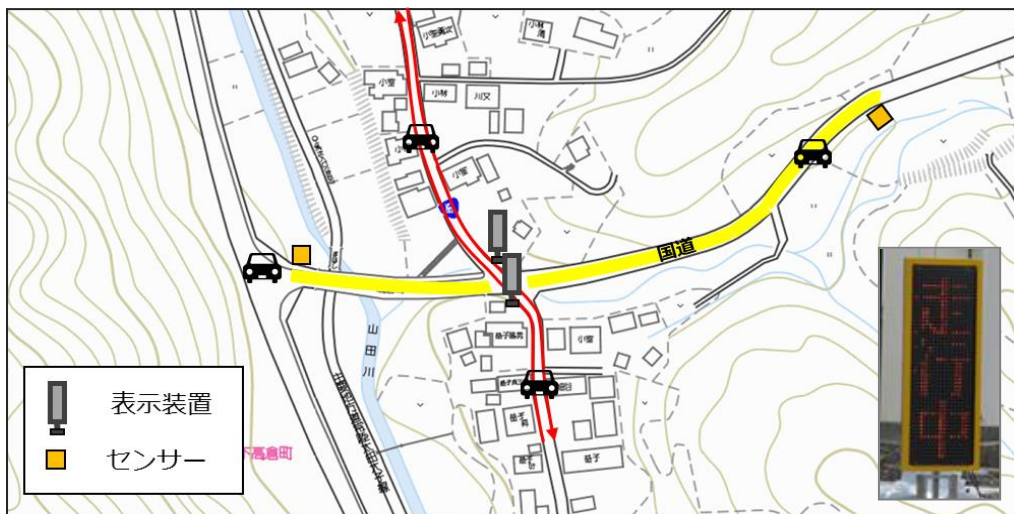


報道関係者 各位

2019年6月21日  
株式会社アークノハラ

## 道の駅「ひたちおおた」を拠点とした自動運転サービス実証実験 手動運転車両の接近を自動運転車両に知らせる「路車協調表示装置」で技術協力



株式会社アークノハラ（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：赤川 喜和、以下：アークノハラ）は、日本工営株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：有元 龍一、以下：日本工営）と連携し、2019年6月23日（日）から7月21日（日）までの期間、道の駅「ひたちおおた」（茨城県常陸太田市）を拠点とした自動運転サービス実証実験※<sup>1</sup>への技術協力をを行います。



【図1】車両検出センサと路車協調表示装置の設置イメージ\_赤線：自動運転車両、黄色：手動運転車両

### 実証実験期間中の道路環境整備から、地域住民の安全・安心を創出

アークノハラは、安全施設製品メーカーとしての「安全・安心な街づくり」のノウハウを活かし、自動運転車両が社会に受容されやすい環境づくりを進めています。本実証実験は、高齢化が進む中山間地域において、自動運転サービスにより地域住民の生活の足を確保するとともに、地域を活性化することを目的としています。アークノハラは、本実証実験において、自動運転車両と手動運転車両が道路を円滑に走行し、歩行者も含めた道路交通秩序をサポートするため、以下の技術協力をいたします。

技術協力の内容	対象	目的
<b>路車協調表示装置</b> 手動運転車両の接近を自動運転車両の搭乗者に対し LED 表示でリアルタイムに知らせる 	自動運転車両の搭乗者（ドライバー）	高齢者ドライバーの多い地域で、手動運転車両の接近を自動運転車両に伝えることで、自動運転車両が手動運転車両の混在する道路環境で安全に運行できるようにする
<b>路面表示材</b> 自動運転車両の走行路線であることを路面に象徴的に表示する	歩行者・自転車	自動運転車両の存在を周知し、注意を喚起する
<b>走行路・乗り場案内サイン</b> 実証実験中の臨時設置タイプのサイン 	地域住民のみなさま	自動運転車両の走行路および、臨時的に設置された自動運転車両の乗り場を地域住民のみなさまに案内し、本実証実験の理解を促進する

※1「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）自動運転（システムとサービスの拡張）」のプロジェクトの1つとして国土交通省・内閣府が行う取組に基づき、国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）による「自動運転（システムとサービスの拡張）／地方部における自動運転による移動サービス実用化に向けた環境整備」に基づき実施されるものです。

## 「路車協調表示装置」「車両検出センサ」とそれらを利用した通信システムについて

本通信システムは、自動運転車両に搭乗するドライバーが、接近してくる手動運転車両やその他の危険を予測しやすくするためのものです。自動運転サービスの社会実装にむけ、実証実験期間中の道路環境整備から、地域住民の安全・安心を創出するとともに、車両の安全な運行に大いに貢献します。

### ＜本実証実験期間中の運用フロー＞

#### ①設置(設置場所は図1を参照)

- ・「路車協調表示装置」を自動運転車両が走行する路線と国道が交差する箇所に設置
- ・「車両検出センサ」を2箇所に設置

#### ②車両検出センサによる感知

- ・車両センサが手動運転車両の国道への侵入を検知

#### ③接近情報の表示

- ・車両センサが感知した接近情報を、通信システムを通じて路車協調表示装置に表示

#### ④自動運転車両ドライバーの危険予測をサポート

- ・自動運転車両に搭乗するドライバーがその表示を視認し危険予測をする

私たちは、自動運転車と歩行者、自動運転車両と人間の運転する車両が、互いにコミュニケーションをとる一つの方法としてこの「路車協調表示装置」を開発しました。

近年、高齢者ドライバーによる誤操作を原因とする交通事故の防止が社会的な課題にもなっております。本実証実験では、例えば、高齢者ドライバーが運転する手動運転車両（または接近する自動運転車両）の接近が本表示装置を経由して表現されることで、不測かつ突発的な危険の可能性を自動運転車両のドライバーが認識しやすくなります。

私たちは、来たる自動運転社会の到来に備え、より安全・安心な自動運転車両と手動運転車両が混在する道路交通社会の創出を目指し、道路環境の安全・安心を考慮した製品、路車協調製品を開発していきます。

## 道の駅「ひたちおおた」を拠点とした自動運転サービス実証実験について

実施期間：2019年6月23日(日)より7月21日(日)

実施ルート：高倉地域交流センター～高倉郵便局～久保田橋停留所

実施主体：道の駅「ひたちおおた」を拠点とした自動運転サービス実証実験 地域協議会

事務局・実験運営：日本工営株式会社

【ご参考】国土交通省関東地方整備局報道発表資料(2017年11月8日)

[http://www.ktr.mlit.go.jp/road/chiiki/road\\_chiiki00000121.html](http://www.ktr.mlit.go.jp/road/chiiki/road_chiiki00000121.html)

## 株式会社アークノハラについて

株式会社アークノハラは、「安心」「安全」「快適」な街づくりを合い言葉に、道路標識や視線誘導標、歩行者用観光案内標識などのサイン、ガードレール・遮音壁などの安全施設製品について、設計～製造～施工の一環したネットワークを構築してまいりました。これからも交通事業の発展及び環境整備の拡充と、安心安全な街づくりに貢献してまいります。

また群馬大学との共同研究等で得られた知見を公共インフラとして行政様、自動運転事業者様とともに活用していくことに邁進してまいります。

### 【会社概要】

株式会社アークノハラ

本社：東京都新宿区新宿1-1-11

設立：1987(昭和62)年8月3日

資本金：5,000万円

代表取締役社長：赤川 喜和

▼会社ホームページ

<https://arc-nohara.co.jp/>

## 野原ホールディングス株式会社について

2017年、創立70年を迎えた野原グループは、これまで建設業界を中心に建材や鉄鋼関連およびセメントなどの建設資材、道路交通標識などの販売・施工を通して、事業を拡大するとともに、時代の変化に合わせた変革や創造を繰り返しながら成長してきました。

近年は、「Innovation」・「Digitalization」・「Globalization」をキーワードにユニークな事業の創出を目標に掲げております。プロ向け建材通販サイト「アウンワークス」や建設情報のデジタル化を目指す新会社「BIMobject Japan 株式会社」、グッドデザイン賞受賞商品のみを販売する国内初のデザインショップ「GOOD DESIGN STORE TOKYO by NOHARA」、特別な思いと時間をシェアする場所「レンタルキッチンスペース Patia」、新しい表現を模索する人たちのための、自由な発想に寄り添う壁紙ブランド「Wh0」など、新規事業を展開しています。

### 【会社概要】

野原ホールディングス株式会社

本社：東京都新宿区新宿 1-1-11

設立：2017年1月5日

資本金：4億8,000万円

代表取締役社長：野原 弘輔

▼会社ホームページ

<https://www.nohara-inc.co.jp>



### 【本技術協力に関するお問い合わせ】

株式会社アークノハラ

営業戦略部企画開発室(担当/安田、荒木) 電話：03-3357-2442

### 【本リリースに関する問い合わせ先】

野原ホールディングス株式会社

社長室(担当/齋藤、中島) 電話：03-3357-2231

e-mail：nhrpreso@nohara-inc.co.jp